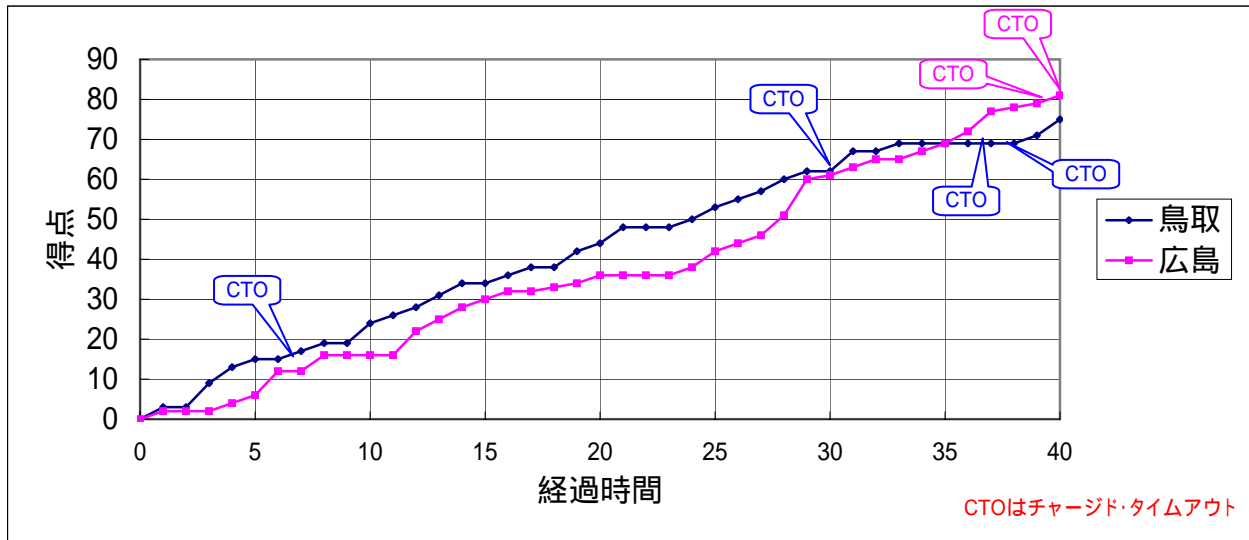


大会名	第58回 国民体育大会 中国ブロック大会	A - 5	15:20	成年男子 決勝															
	(バスケットボール競技)	鳥取 75 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>24</td><td>-</td><td>16</td></tr> <tr><td>20</td><td>-</td><td>20</td></tr> <tr><td>18</td><td>-</td><td>25</td></tr> <tr><td>13</td><td>-</td><td>20</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table> 81 広島			24	-	16	20	-	20	18	-	25	13	-	20	-	-	-
	24				-	16													
	20				-	20													
18	-	25																	
13	-	20																	
-	-	-																	
期日	2003年(平成15年)8月17日(日)																		
会場	やまぐちリフレッシュパーク(山口市)																		

主審 松本隆志(山口) 副審 神田亮一(岡山)



### 鳥取

No.	氏名	点	3P	2P	FT	F	R	As
4	横山 友和	11	2	2	1	4	3	3
5	門脇 総司	5	1	0	2	3	1	2
6	提嶋 俊介	14	0	6	2	5	13	2
7	提嶋 政志	15	0	7	1	4	3	3
8	森 直樹	15	0	7	1	3	9	2
9	田中 智基	0	0	0	0	2	0	0
10	木下 大樹	2	0	1	0	0	1	0
11	青山 太郎	0	0	0	0	0	0	0
12	木村 康宏	10	0	5	0	5	3	1
13	山崎 英治	0	0	0	0	0	1	0
14	加藤 淳一	3	1	0	0	2	0	0
15	徳吉 雄三	0	0	0	0	0	0	0
コーチ	遠藤 健司							
合計		75	4	28	7		34	13

### 広島

No.	氏名	点	3P	2P	FT	F	R	As
4	林田 義文	5	0	2	1	2	3	0
5	水崎 一良	0	0	0	0	0	0	0
6	高嶋 潤一	4	0	0	4	4	3	1
7	市田 雅明	2	0	1	0	0	2	0
8	粟井 洋充	13	0	5	3	2	5	1
9	伊川 隆浩	0	0	0	0	0	0	0
10	平田 哲之	5	0	1	3	5	11	0
11	浦 伸嘉	11	1	4	0	2	5	0
12	益田 将治	13	2	2	3	1	3	0
13	仲摩 良平	28	0	12	4	2	2	1
14	北本 幹雄	0	0	0	0	0	1	1
15	寺島 慎吾	0	0	0	0	0	0	0
コーチ	小林 康起							
合計		81	3	27	18		35	4

はスターター( はキャプテン) 3P...3点シュート 2P...2点シュート FT...フリースロー F...ファウル R...リバウンド As...アシスト

## 戦評

両チーム、ハーフのマンツーマンDEFで始まった。鳥取は197cmと長身の 森のローポストにボールを集め、残り5分までで4 - 15とリードをひろげる。広島は 浦、 仲摩の切れのあるドライブで連続ゴールで点差を縮め、1分間で12 - 15と3点差につめる。ここで鳥取はタイムアウト。その後、鳥取は 木村の活躍でまた点差を広げ、第1Q 24 - 16鳥取リードで終了。

第2Qも第1Q同様、鳥取は 森のローポストにボールを集めて、そこを起点として内外にボールを散らし、バランスよく攻める。広島も 内摩のドライブインや速い展開からのシュートで一進一退の攻防が続く。広島がつかれば鳥取が逃げる展開で、44 - 36と第1Qのリードを鳥取がそのまま保ち、前半を終了する。

第3Q開始早々から鳥取が三連続ゴールでリードを14点差とする。その間3分間、広島はゴール下に切れ込む 森の高さに阻まれノーゴール。このまま鳥取が走るかと思われたが、ファールの込んだ 森をベンチに下げた際に広島が反撃。 粟井のドライブや 浦のスティールが連続して決まり、点差を一気に縮め62 - 61と1点差までつめて最終クォーターをむかえる。

運命の第4Q、残り5分まで一進一退の攻防を繰り返す。ここから、広島 仲摩、 益田のドライブやスティール・3Pなどで一気に11点連続ゴール、その間、ほぼ3分間、鳥取は無得点、69 - 76と広島が突き放す。鳥取たまたまタイムアウト。残り3分、鳥取はオールコートあたり、ボールを奪いに行くがファウルとなり、広島にフリースローを与える。広島はこのフリースローをはずすが、鳥取の得点を阻み、結局75 - 81で広島が逃げ切り、優勝した。広島 浦、 益田、 仲摩らガード陣の活躍が光った。

記載者 林 哲郎 (所属) 山口県バスケットボール協会